



中央道舗装補修現場 リモートで安全確認

大成ロテックの西田社長

大成ロテックの西田義則社長は、ビデオ会議システムとウェアラブルカメラを使って安全パトロールを3

日に実施した。写真。東京都新宿区の本社と、岐阜県中津川市と愛知県小牧市間で施工する「中央自動車道多治見管内休憩施設舗装補修工事（2020年度）」（発注・中日本高速道路会社）現場をICT（情報通信技術）で接続。安全に関する点検や気になる施工箇所を大型モニターにアップで映し確認することで品質や出来栄も点検した。

西田社長はパトロールに立ち会った協力会社事業主から、要望や意見を直接聞くとともに、建設キャリアアップシステム（CCUS）の積極活用を促した。講評では同社の工事担当者に対しては、新型コロナウイルス対策を積極的に行いつつ、資機材搬入時の第三者災害防止対策や地下埋設物損傷防止に対する取り組み等を確実に、「無事故無災害で品質の良いものを納めるように」と指示した。

同社は新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえ、現場の安全・環境・品質確保を目的にリモートパトロールを継続実施している。3月上旬までに全国10支社の主要現場を中心に実施する予定だ。